



17 大和綴装『女郎花東岸居士』一帖

江戸初期写、筆者不明 表紙：紺紙(雁皮 100%)、0,08 mm厚、金泥草花描き 題簽：鳥の子紙(雁皮 100%)、朱色金銀泥草花描き 見返し：本紙共紙使用 本紙：斐紙(雁皮 100%、布溜漉き)、0,09 mm厚、填料米粉入、膠塗布打紙加工 寸法：七寸九分五厘(242)× 五寸六分五厘(172)

表紙は、紺紙に金泥で草花が描かれており、謡本の女郎花と東岸居士の二曲を書写されたもので、この書も江戸初期写と考えられる。

46 貝多羅經 『スリランカ細字經』四十八枚・一紐



18—19 世紀頃、両面書写、梵語のサンスクリット語 本紙：貝多羅椰子の葉、0,31—0,37 mm厚 寸法：豎一寸八分(55)× 横一尺二寸六分五厘(383)

貝多羅椰子の葉に書いたスリランカの經典で、ニカ所に紐穴部分を外して書写され紐が通され貝多羅葉を、バラバラにならないようにされており、読経時に使用されていた經典である。